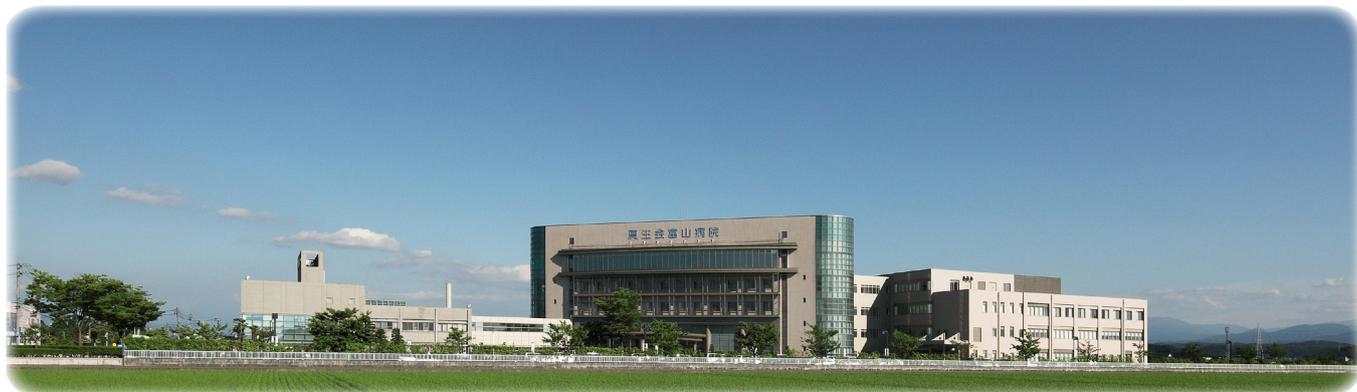


地域連携だより



地域連携は街づくりです。



事務長

よしだ たかひさ
吉田 充寿

真生会の 2021 年ビジョンの最初に、「射水市を住みよいまちとするために 地域包括ケアシステムに必要な専門サービスを幅広く提供し、射水市になくってはならない、愛される真生会となります。」と掲げています。

できるだけ幅広く専門サービスを提供したいと考え、JMIP（外国人患者受入れ医療機関の認証）を受けたのもその一環です。外国人患者という、地域に直接関係ないと思われるかもしれませんが、現に射水市には 2000 人以上の外国人が生活していて、市民全人口に対する割合は富山県内でも最高です。

これは他の市の外国人女性でしたが、こんなことがありました。その女性は日本に来て 20 年。日本人男性と結婚し幸せに暮らしましたが、ご主人が大病で終末期を迎えました。女性は、これまでご主人以外、周囲との交流がなかったため、「主人が亡くなったら私は日本でどうやって生きていけばよいの」と悲嘆に暮れました。また母国では入院したら家族

が付き添うのが当然であるため、日本の完全看護が理解できず、「奥さんはお帰りいただいて良いですよ」と言われたことで、自分は拒絶されたと感じて二重のショックを受けたのでした。そこで当院に相談があり、紹介されました。ただ医療通訳がいれば事足りるケースではありません。緩和ケアチームの専門看護師、医療ソーシャルワーカーとも連携して対応しました。

これから国際化、多様化の時代に、真生会富山病院だけで街づくりはできません。地域で多様な役割を担う方々と連携することで、対応力を高め、市民が住みよい街にできたらよいと思います。



看護師、医療ソーシャルワーカー、医療通訳が連携して患者さんをサポート

第7回健康セミナー 開催！

第7回健康セミナーを終えて

地域医療部 医療ソーシャルワーカー ^{はまな ひろこ} 濱名 寛子

梅雨の明け切らない3連休の初日（7月13日土曜日）、第7回健康セミナーは開催当日を迎えました。今回は、「人生100年時代の糖尿病を生きる～あなたと築く療養生活～」と題し、当院名物の劇団TIPSによる劇を交えた講演を開催しました。

健康セミナー実行委員長である豊田茂郎医師の開会挨拶の後、オープニングはテンポ良くTIPSの劇で始まりました。ユーモラスな劇に続いて医師の講演があり、内科の平谷医師からは、糖尿病の治療について「糖尿病患者の全員が透析になる訳ではない。治療を適切にすれば糖尿病と共存できる」と定期受診の大切さが示されました。眼科の植田医師からは、糖尿病の合併症である網膜症の予防と治療や、定期受診や健診による早期発見や早期治療が大切であることが伝えられました。



ひらたに かずゆき
平谷 和幸 医師



うえた よしき
植田 芳樹 医師

劇中のロコモティブ症候群予防体操（通称ロコトレ）や、座ったままでできる運動では、リハビリスタッフの指導に従って参加者全員が身体を動かし、会場に一体感が生まれました。

劇の登場人物で特に人気だったのが、今回デビューを果たしたデンタルクリニックの鈴木渉歯科衛生士が扮する女子高生シロセスズ（通称JK・SUZU）です。本物の女子高生さながらの演技に、終了後のアンケートでも「可愛いかった」「演技が素敵でした」と好評でした。



左側がシロセスズ。



劇団TIPSには8名の劇団員がいます。

医師への質問コーナーでは、糖尿病予備軍の血糖値についてなど具体的な質問が聴衆から挙がり、ご自身の健康について真剣に考えておられる様子が伝わってきました。途中から来場される方もあり、結果的には約190名の方が参加されました。ホールを挟んで向かい側の研修室で同時開催した「糖尿病カフェ」にもたくさんの方が足を運ばれました。

「射水市を健康長寿世界一の街に」そんな願いが一人でも多くの方に伝わっていただければ幸いです。

初めての糖尿病カフェを開催して

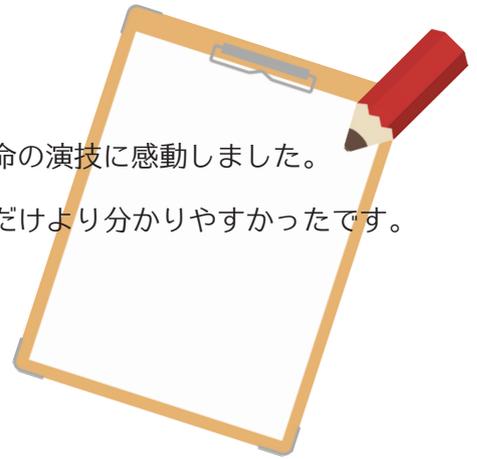
糖尿病センター 看護師 今城都志枝

「糖尿病カフェ」は糖尿病療養指導士2名、管理栄養士1名、ケアメイト1名で担当しました。明るい雰囲気の中、お茶を飲みながら個別に相談を受けました。糖尿病の治療は近年、新しい治療法が発表されています。来院時に治療や日常生活について十分にお伝えできる時間があればよいのですが、日頃の診察では話ができないこと、相談しにくいことがあり、困っている方が多いことを実感しました。（右ページに続く）

約 20 名の方が相談に来られ、特にセミナーの休憩時間には来場者が急増。終了時間ぎりぎりまで相談される方もあったほどでした。今後は、院内でも年に 1 回程度「糖尿病カフェ」を開催し、皆さんの相談に答えていけたらと考えています。

～健康セミナーアンケートからのご意見～

- ・先生方の話がとても聞きやすく、劇団 TIPS の一生懸命の演技に感動しました。
- ・初めて来ましたが、面白く過ごせました。単調な講演だけより分かりやすかったです。
- ・面白く為になるすごく充実したセミナーでした。
- ・体操がとても良かった。



部署紹介：キャリア支援室

室長 よしだ たかひさ 吉田 充寿

キャリア支援室は、職員の幸せなワークライフを支援します。真生会は自利利他の医療を理念として、患者さんに安心と満足 of 医療を提供します、と謳っています。職員が幸せでなければ、それはできません。では職員の幸せとは何か。充実したワークライフ、より多くのより高度な医療サービスで患者さんに安心満足を提供できるようになること、提供できたことそのものを自分の喜びとできること、と考えています。

具体的には、一昨年度に改定した人事制度の運用を実効あるものにすべく、取り組んでいます。制度説明会を複数回開催して、制度の趣旨を周知し、浸透を図りました。また、人事制度運用のキーマンである管理職を対象に、アンケート調査を実施して、課題を抽出しようとしているところです。評価や面談が、職員のやる気と成長につながったかどうか、を確認したいと思います。

人事制度以外では、各部門、各職場で職員同士が情報交換するオープンな関係性を保つ取り組みを、推進しています。関係性の質の向上が、思考の質、行動の質を高めるという理論を取り入れて、職員、各部署が自律進化していくことを促します。

キャリア支援室は、職員からも管理職からもいつでも相談されるような、キャリア開発のプラットフォームとなることを目指しています。



キャリア支援室のメンバー

患者支援センターを開設しました

患者支援センターの大切な役割の一つが、入退院の支援です。入院患者さんにはさまざまな生活背景、抱えておられる問題があります。これまでは患者さんが入院されてから家族構成や生活上の不安などをお聞きしていました。患者支援センターでは入院前に困っておられることをお聞きし、相談内容に応じて各専門職が早期から関わることができるよう調整しています。退院後の生活についても、患者さんにとってベストな方法を提案していきます。

本館1階、整形外科の隣が患者支援センターの事務室です。事務室内には地域医療部、PTS推進室のスタッフも勤務しています。患者さんの支援に深く関わる部署が連携することで、患者さんやご家族の苦しみやご要望に幅広く対応できるのではないかと考えます。入院患者さんが安心してお住まいの地域に戻れるよう、支援していきたいと思っております。



患者支援センターの会合

NPO 法人富山県腎友会定期大会に2年連続出演！

6月9日(日)に行われたNPO法人富山県腎友会第49回定期大会に、当院の劇団TIPS(チップス)が今年も出演させていただきました。劇団TIPS団長である管理栄養士・梅原真弓さんの感想を紹介いたします。

「うれしいことに昨年に引き続き2度目の公演です。今年は『モンスタイガールの透析ブログ』と題して、不安を抱えた透析患者さんが人とのつながりで前向きに透析ライフを送っていくという内容を笑いを交えて演じてきました。

理学療法士の種田啓之さんの椅子体操で一気に会場は一体化。エンディングは富山県腎友会の会長さんを巻き込んでの白熱した劇に会場は大盛り上がりでした。

施設管理課の酒井周建さんが作る小道具も年々進化！劇を引き立たせてくれるTIPSプロデューサーは今年も健在です！！



梅原団長（前列右）率いる劇団TIPS。
前列右から2番目が池田会長。

私とデンタルクリニックの鈴木渉副科長（今年入団した新人劇団員です！）は、演じる皆を応援…はそっちのけで見入って一緒に笑っていました」

NPO法人富山県腎友会の池田充会長からは、「楽しませてもらいました」と温かいお言葉をいただきました。演劇を通じて地域のみなさまの健康を応援できるよう、劇団TIPSの活動は続きます。